

令和８年度 第１回 印西市社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和８年７月３０日（木） 午後２時００分から午後５時２４分まで
- 2 開催場所 印西市役所 ３階 大会議室
- 3 出席委員 青井委員、松崎委員、高橋委員、押田委員、杉山委員、泉委員、
片倉委員、馬場委員、山本委員、小島委員、石川(智)委員、香取委員、
齋藤委員
- 4 欠席委員 石川委員、小林委員、箱崎委員、土屋委員
- 5 事務局職員 生涯学習課：中嶋課長、佐瀬係長、平山主査補、齋藤主任主事、
森主事、高橋主査補、鈴木社会教育指導員、関家庭教育指導員、
小久保係長、石井主査
文化振興課：飯島課長、菅谷係長、島戸主任主事
- 6 内容 議事
 - （１）令和７年度生涯学習関連事業の報告について
 - （２）令和７年度文化・芸術関連事業の報告について
 - （３）令和８年度印西市の教育施策について
 - （４）令和８年度生涯学習関連事業の計画について
 - （５）令和８年度文化・芸術関連事業の計画について報告
 - （１）コミュニティ・スクールの進捗状況について
 - （２）（仮称）印西市生涯学習ビジョン策定基本方針について
 - （３）社会教育関係団体の認定取消しについて
 - （４）令和８年度印旛郡市社会教育振興大会についてその他
- 7 会議要旨 以下のとおり

1 開会

2 委嘱書交付

事務局 令和 8 年 4 月 1 日から新たに選任された委員に対し、生涯学習課長から委嘱書の交付を行う。

委嘱委員 齋藤則夫様 委嘱期間 令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日までとする

事務局 「千葉県社会教育委員の心得」について説明。

3 議長挨拶

議長 今年度は 4 回又は 5 回程度の会議が予定されていると聞いている。社会教育委員は、調査研究を行い、その上で行政へ意見を述べる立場であるため、役割と立場を改めて確認して会議に臨んでいただきたい。「千葉県社会教育委員の心得」は、県の研修会で初めて見た資料であり、新任委員を含めて会議の当初に共有する必要があると考え、事務局に紹介をお願いしました。

この社会教育委員の組織は市町村、県、地区、関東ブロック、全国へとつながっており、総会、研修会、大会等を通じて学び合い、各地域の生涯学習・社会教育行政を盛り上げている。令和 9 年度には関東甲信越静社会教育研究大会が千葉県で開催される予定であり、県内各地区に役割分担がされている。社会教育委員は、会議で審議・承認するだけでなく、研修会等にも参加意識を持ち、公益的な立場から意見を述べ、事務局と委員が力を合わせて取り組んでいただきたいと思います。

4 会議録署名委員の指名について

議長 片倉委員及び山本委員を指名し、了承をいただいた。

議事（１） 令和７年度生涯学習関連事業の報告について

事務局 議事（１）について説明。

A委員 コスモスパレットについて、昨年度、入館者の映像を解析し、年齢や性別等を推定する方法で利用状況を把握しているとの説明を受けました。個人情報や人権に関わり、子どもも利用する施設であるため、映像の管理方法や利用者への表示が重要です。昨年１２月の会議で、導入経緯や表示方法について確認を求めたが、回答がないままとなっています。

状況の確認ということで、現状はいかがか伺いたい。

事務局 前回そのような意見があったことは承知しているが、実務担当職員が異動し、引継ぎ後の確認が不足していたため、現在までの進捗を把握できていません。改めて確認させていただきます。

A委員 利用者の権利に関わる事項であるため、映像の管理方法等を確認していただきたい。

議長 職員の異動により、担当者に依存した業務や前年度からの懸案事項が途切れることがあってはならない。部署として正確に引き継ぎ、次回の会議で回答していただきたい。

B委員 コミュニティ・スクールの導入について、学校運営協議会を３校で各４回開催したとのことだが、具体的にどのようなテーマを議論し、どのような方向を目指したいとか、連携がこうだったとか、内容を伺いたい。

事務局 学校運営協議会は基本的に年４回開催している。第１回は学校運営の基本方針を承認し、学校のグランドデザインや目指す子ども像を共有す

る。第2回は、義務教育終了時まで子どもに身に付けさせたい力、そのために必要な学び・体験・支援について熟議を行い、第3回は、教職員が教育に専念できる環境や働き方改革を踏まえ、地域・家庭と学校がどのように連携、協議していくかについて行い。第4回は学校関係者評価を行い、学校運営協議会の成果と課題、学校の運営状況を確認しながら、次年度の改善に生かしていこうということで進めました。これは令和7年度の実施内容であり、導入1年目と2年目では課題が異なるため、今年度は各校の状況に応じて進めるものです。

B委員 先行導入した印西中学校区は、今年度、地域学校協働活動を具体的に進める段階に入ると理解してよろしいか。

事務局 令和8年7月に地域学校協働活動推進員に関する要綱を制定いたしました。今後、具体的な取組を進めます。詳細は後の報告事項で説明いたします。

C委員 放課後子ども教室は、本埜小学校及び滝野小学校が各9回、原山小学校が191回と、開催回数に大きな差がある。差が生じる理由と今後の方針を伺います。

事務局 本埜小学校及び滝野小学校の活動は、合併前から継続している地域ボランティア中心の事業で、月1回程度、体験学習やイベントとして実施している。原山小学校は、学校の開校日にほぼ毎日、見守りスタッフを1日3名程度配置し、子どもが学校内で自由に活動できる放課後の居場所を提供しています。この運営形態の違いが開催回数の差となっている。今後も、各地域の人員や活動団体の意向、実情に合わせて実施していきたいと考えています。

議長 詳細は令和8年度計画の説明をお願いします。

私から、印西市民アカデミーの最終評価をCとした理由を伺います。

事務局 資料1 最終ページの評価基準に基づき、第5次実施計画の指標である開催数76回、参加者数60人と実績を比較して評価した結果、C評価としました。

議事(2) 令和7年度文化・芸術関連事業の報告について

事務局 議事(2)について説明。

D委員 子どもたちの文化芸術活動について、複数の教室の参加者が同じ親子に固定されているのか、教室ごとに異なるのかを伺いたいです。伝統文化に興味を持つ子どもが増えることは望ましいが、参加者層の固定化の有無によって今後の考え方も違って来るかなと感じました。

事務局 募集については、学校を通じて保護者へチラシを配布し募集した。フェスタ後に教室へ展開したが、各事業の内容が異なるため、参加する子どもは重複していない状況でした。フェスタのみ参加した子ども、教室のみ参加した子どももあり、継続したいという関心の違いが表れていると考えます。

議事(3) 令和8年度印西市の教育施策について

事務局 議事(3)について説明。

議長 本施策は教育委員会全体の基本方針であり、本会議が承認する性格のものではなく、今後の審議の前提として確認いたします。質問や意見はありますか。

B委員 資料5 ページの「教育情報化アドバイザーを配置し、デジタル基盤の活用を専門的に支援する」とは、具体的に何を行うのか。また、教職員の負担が大きくなった原因や、どんなことが校務の負担が大きいのかが分

かりにくい。デジタルは教育の手段であり、教育は人と人が対面して行うことが基本だと考えるため、デジタル基盤の高度化を目的化せず、問題意識を持って取り組んでほしい。

事務局 学校教育分野の詳細を把握していないため、この場で具体的に回答できない。教育委員会内で質問と意見を共有し、次回、示せる内容を用意します。

議長 社会教育とも関連するため、教育委員会内で共有し、簡潔に回答していただきたい。

事務局 令和7年度までは教育振興基本計画の基本目標3・4に基づいて事業を区分していたが、令和8年度からは新たな4本柱に区分を変更した。次の議事（4）及び（5）は、この体系に沿って各事業を組み替えている。柱1及び柱2は主に学校教育分野、柱3及び柱4が生涯学習・社会教育・文化芸術分野に関係します。

A委員 昨年度の千葉県社会教育振興大会で、伊能忠敬記念館を社会教育の拠点として活用する香取市の事例発表を聞いた。印西市には印旛日本医大駅付近に医科器械歴史資料館があり、医学関係の重要な資料を所蔵していると聞きます。開館日が月水金と限られ、十分に活用されていない印象がありますが、現在の運営状況を伺います。また、医学や印西市の歴史を学ぶ展示、講演会等を行う重要な社会教育施設の視点に立って、そうしたことは展開ができないかを確認と意見と情報共有で伺います。

事務局 当該資料館は指定管理によって運営されている施設で、所管は企画政策課で、運営状況の詳細の説明ができませんが、公共施設には、社会教育機能を有する公民館、図書館、文化ホール、印旛歴史民俗資料館、木下交流の杜歴史資料センター等、様々な施設があります。現在、公共施設

の在り方は見直しが求められているため、御提案のいただいた件について情報共有をさせていただきます。

D 委員 地学を専門とし、教員を目指す大学生を対象に、木下貝層や木下交流の杜歴史資料センター等を活用する授業を計画しています。印西市には国指定天然記念物の木下貝層や、印西市から出土したナウマンゾウに関する資料等、地域固有の自然・歴史資源があります。一般的な認知度は高くないかもしれないが、教員を目指す学生が学ぶことで、将来の教育活動にもつながる。市内外へ認知を広げ、自然・歴史資源を活用した事業アイデアがあれば積極的に進めていただきたい。

事務局 印西市はニュータウンの都市的利便性が注目される一方、豊かな自然や歴史文化も残っています。二つの魅力を多くの市民に知っていただけるよう努めたいと思います。

E 委員 「多様なニーズに対応した学びの機会づくり」に関連して、中学生・高校生が市の学習・文化事業、イベントや公民館等を利用する姿が少ない一方、ショッピングセンターのフードコート等で夜間まで勉強する生徒を見かける。市の施設で学び、世代を超えて関わってほしいと思います。そういった何か計画があれば教えてほしい。

事務局 市内 5 公民館は、令和 8 年 4 月から週 2 回、午後 9 時まで夜間開館し、個人学習を支援するため部屋を提供しています。コスモスパレットには常設の学習室があり、毎日午後 9 時まで利用できます。昨年に比べると、学習の場の拡大に努めております。

議長 開館時間の拡大が若者に十分届いているかが問われると思います。公民館、図書館、コスモスパレット等で学べることを、若者へ分かりやすくアピール、周知が必要です。そういった点で次回、委員皆さんで出し合

えたらよいと思います。

議長 資料１５ページの「学校と地域が連携した教育の仕組みづくり」に、重要なキーワードである「コミュニティ・スクール」が明確に見えない。学校運営協議会を設置するだけで終わるのではなく、ここから中身を詰めていく、熟議を重ね、地域学校協働活動につなげることが重要あると思います。その点について生涯学習課としてどのように捉えているのかを伺いたい。

事務局 学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールと位置付ける。資料１６ページの具体的な取組では「学校運営協議会の設置（コミュニティ・スクール）」と記載している。令和７年度に印西中学校校区で導入し、令和１０年度末までに全校への設置を進めていきます。令和１１年度以降は、導入後の定着と改善を図り、地域学校協働活動等と連携する仕組みを作っていければと考えております。

議長 施策の主な取組の段階でも「コミュニティ・スクール」を明記すべきであり、それほど重要な言葉であるとの意見を申し上げます。

議長 それから教育施策について、印西市教育ビジョンが発表されました。そこには生涯学習・社会教育について触れていなかったが、その後、別に生涯学習ビジョンを策定する流れであるとの説明がありました。生涯学習ビジョン策定に当たっては、生涯学習課で担当することを確認したい。

事務局 その理解で間違いありません。

A 委員 教育施策で、障害のある方への教育上の配慮について、あまり言及が少ないように感じましたが、その点いかがですか。

- 事務局 資料１２ページの「インクルーシブ教育システムの充実」が該当するものです。
- A 委員 確認いたしました。
- 議事（４） 令和８年度生涯学習関連事業の計画について
- 事務局 説明に先立ち、資料４の訂正をお願いします。２枚目の「８ 市民アカデミー講座の充実」の目標値として記載された参加者数・学級開設数は、「９ 家庭教育学級の開設」の目標値であります。「８ 市民アカデミー講座の充実」の目標値欄は横線バーとしていただきます。
- 議長 市民アカデミーを「充実」させる事業であれば、どうなったら充実した講座になったか、後で評価できなくなるので、目標は必要ではないか。数ではなく中身ってことの評価の基準が必要ではないか。
- 事務局 「市民アカデミーの実施」は開催数や参加人数を指標とする一方、「市民アカデミー講座の充実」はプログラム内容の改善を扱うため、単純な数値では測れないと考え、目標値を設けなかったものです。受講生の学習レポートから講座内容の評価し、次年度の講座を計画する際に活用、反映しているものです。今後、報告方法についても検討します。
- 議長 まず、議事（４）の計画全体を説明していただき、その後に質疑を行います。
- 事務局 議事（４）について説明。
- F 委員 家庭教育学級の目標値である参加者数３，９００人、開設数４２学級は、毎年実績との乖離が大きい。市内小中学校数等を考えても現実に即していないのではないか。また、参加人数だけでなく、受講者の満足度を評価指標にすることで、担当者や学校の取組を適切に評価できる。目

標値は毎年度の実情に応じて見直し、利用者満足度等の質的な評価を、今後導入してはいかがですか。

事務局 現在の目標は実施計画の指標を用いており、計画期間中に下方修正できないルールがあるため、高い目標値のままとなっています。次回の実施計画改定時には、実情に合った指標を設定したいと思います。定量的数値、人数だけでなく、満足度等で測る方法を含め、適切な指標を検討していきたいと思います。市民アカデミー講座の充実についても、受講者アンケートで満足度を数値化するなど、定量的な把握方法を検討していきたいと思います。

議長 教育施策では、市民アカデミー講座の充実について、令和８年度に「制度設計・構築」、令和９年度に「実行・改善」としている。単なる講座の満足度にとどまらず、市民アカデミーで学んだ人が地域活動やまちづくりへつながる制度を設計することが重要である。令和８年度にどこまで制度設計を進めるのか、文章で目標を示すことも可能ではないか。

事務局 今年度、担当者自身も受講生と一緒に学びながら、まず市民アカデミーの認知度不足を課題と捉えました。そこで、周知を目的に１８歳以上の一般市民も参加できる特別講座を検討し、次年度の入学者増加につなげたい。その後、市民活動支援センター等と連携し、学びから市民活動へ移行できる仕組みづくりを進めたいと考えております。

議長 一般公開講座による周知は一つの取組みですが、制度設計には、修了生が市内で仲間をつくり、市民活動やまちづくりへ関わられるような、より大胆な改革を期待します。過去の社会教育委員会議でも具体的な意見を重ねてきたため、過去の会議録、庁内の議論、アカデミー修了生の経験を踏まえて検討してほしいです。

G 委員 令和 7 年度まで事業計画にあった「重要度」の欄が、令和 8 年度からなくなつた理由を伺いたい。また、市民アカデミーの参加者数目標 60 人に対し、今年度の在籍人数は既に確定していると思いますが、実人数を示してほしい。1 年生から 2 年生へ進級する際のやめる方が多い、退学理由について、アンケート等で分析しているのでしょうか。さらに、市内施設を学ぶカリキュラムに医科器械歴史資料館を加えることも検討してほしいです。

事務局 「重要度」は旧計画の様式に設けていた項目で、新しい教育施策の様式にはないため削除しましたが、市民アカデミー等を重要な事業と認識していることに変わりはありません。現在の在籍者は、1 年生が入学 17 人のうち 1 人退学し 16 人、2 年生が当初 18 人から 13 人となり、合計 29 人の在学です。目標値との乖離は、今後の指標見直しで進めさせていただきます。また、退学者へのアンケートは実施していないが、個別に理由を聞き取っています。また、施設見学は全施設を回るものではなく、時間や経路を考慮して公民館、松山下公園、コスモスパレット等を選んだ。医科器械歴史資料館の提案は今後の参考といたします。

G 委員 退学理由の中に、運営方法を改善すれば継続できたケースがあるのか伺いたいと思います。

事務局 聞き取った理由は、体調上の事情、就労により自主研究の時間を確保できないこと、既に市民活動を行っており研究テーマを設定しにくいこと等となっております。

H 委員 印旛公民館がふれあいセンターいんばとの複合施設へ移転した後、現在の公民館に隣接するグラウンド、弓道場、テニスコート等はどうなるのですか。

- 事務局 これらは公民館ではなく公園施設として管理されているため、公民館のみが移転し、グラウンド等は現地に残り、引き続き運用されます。
- H 委員 順天堂大学との生涯学習公開講座は、小学生親子を対象としたスポーツ講座が中心です。大学では一般向けの健康講演等も行われており、幅広い年齢の市民を対象とする公開講座を実施できないものですか。
- 事務局 現在の講座は、印西市、酒々井町、順天堂大学の三者で、旧印旛村時代から小学生親子を対象として継続してきた経緯があります。一般向け講座が可能か、順天堂大学等と協議し、検討したいと思います。なお、市民アカデミーでは大学のオープンキャンパスにおける健康講話を予定しているが、現時点ではアカデミー生のみが対象です。
- 議長 順天堂大学には健康・スポーツ分野だけでなく、文学、英語、スポーツマネジメント等、様々な専門の教員がおりますので、一般市民向けに幅広い分野の講座を依頼してほしいと思います。
- I 委員 中央学院大学では、アクティブセンターが幅広い分野の公開講座を実施しており、市民が希望する講座を選べます。市内に大学がある利点を生かし、順天堂大学でも一般市民が受講できる講座を設けてほしい。大学へ入る機会を増やし、地域に開かれた大学となることを期待します。
- A 委員 順天堂大学には、スポーツ健康科学部のほか、医学、英語、文学、スポーツマネジメント等につながる多様な専門がある。相談をいただければ、より身近に感じてもらう場をご相談いただければ実現可能ではないかと思います。
- B 委員 市民アカデミー講座予定表の「里山について学ぶ」は、何を学ぶ講座だったのか。「グリーンインフラについて学ぶ」の講師と内容、竹中工務店の見学における集合場所、卒業論文発表会の会場を確認したい。

- 事務局 里山の講座は、N P O 法人矢田武西の原っぱの会の方を講師として、本来は現地を散策しながら自然と歴史を学ぶ予定でしたが、雨天のため座学で実施いたしました。グリーンインフラの講座は、内容は現在調整中ですが、グリーンインフラ関係団体から講師を招き実施する予定です。また、竹中工務店の見学はコスモスパレットに集合して徒歩で向かいます。卒業論文発表会はコスモスパレットの芸術ホールで開催する予定であります。
- C 委員 「公民館及び地域交流館の主催事業の充実」の概要にある「健康、福祉、子育て、文化芸術等の機能を備えた複合施設等の充実」という記載は、事業内容の充実ではなく施設整備の説明になっていますが、表現を修正すべきではないですか。
- 事務局 御指摘のとおり、コスモスパレット整備時の説明が残ったものと考えられるため、該当する箇条書きは削除をお願いします。
- J 委員 公民館は貸館として多くのサークルに利用されているが、主催事業について、地域の特色を生かした具体的な事業内容が重要である。次回の実績報告では、各公民館がどのような工夫をし、どのような事業を展開したかを具体的に報告してほしいです。
- 事務局 次回の報告で具体的な事業内容をお示しいたします。
- D 委員 「誰もが訪れたいと思える学びの場づくり」に関連して、公園は防犯上の理由から夜間利用しにくく、カブトムシやクワガタ等の夜の生き物を親子で観察する機会が限られています。期間限定で夜間利用を認めるなど、自然環境を活用した生涯学習の場を検討できないか。
- 議長 公園緑地担当部署の所管であるが、生涯学習の観点から庁内連携が必要と考えます。担当部署へ意見を伝え、回答を得てほしいです。

- B 委員 生物多様性の観点から、生き物が生息できる湿地や森等を公園設計に取り入れることが重要であり、グリーンインフラの考え方にもつながるのでは。
- 議長 アフタースクールと放課後子ども教室は、目的が似ているように見えますが、両者の違い、学校を会場とする場合の教職員負担、新たに制度を設ける理由を伺いたい。
- 事務局 いずれも子どもの居場所や体験の機会をつくる目的を持つが、運営主体と方法が異なります。放課後子ども教室は地域ボランティアが、地域の実情に応じて実施しております。アフタースクールは市の事業として、学童クラブと一体的に運用し、体育館、校庭、特別教室等を活用する。放課後から午後５時頃まで、指導員が片付けや施錠まで行い、学校の負担をできるだけ増やさないよう調整しています。
- 議長 将来、原山小学校等へアフタースクールを拡大した場合、既存の放課後子ども教室と重複する。地域ボランティアとの調整は進めていますか。
- 事務局 放課後子ども教室の運営委員会やコーディネーターとの意見交換で、将来のアフタースクール導入について説明しています。結論には至っていませんが、将来的には、地域の取組を尊重しながら、両事業が融合していく形を想定しています。丁寧に調整し、よりよい方法を見出していきたいと考えております。
- 議長 今後の調整状況を次回以降も報告をお願いします。
- I 委員 コスモスパレットは国道４６４号や周辺道路から施設への案内表示がなく、場所が分かりにくい。施設付近まで来ても通り過ぎる人がいます。道路管理担当等の所管を確認し、公共施設として分かりやすい案内表示板を設置してほしいです。

議長 コスモスパレット等の社会教育施設への案内表示を設けてほしいという強い要望として、関係部署へ伝えていただきたいと思います。

議事（５） 令和８年度文化・芸術関連事業の計画について

事務局 議事（５）について説明。

K委員 子どもたちの文化芸術活動について、昨年度は伝統文化体験フェスタと神楽、邦楽・邦舞、将棋の教室を実施しています。今年度は、幾つの事業を、どのような内容で実施する予定か伺います。

事務局 伝統文化親子教室は令和７年度に初めて実施しました。令和８年度は、事業内容や制度を見直すため、同教室の開催を予定しておりません。ですが令和９年度以降の実施へ向け、芸術文化協会等の関係者と協議等をさせていただいております。

K委員 印旛地区や本埜地区には地域固有の伝統芸能・文化があり、少子化の中でどのように継承するかは、地域の魅力を発信する上でも重要であると思います。目標の前に事業目的があり、目的をどの程度達成したかを評価して改善していくことがなければ、内容の充実は図れないと思います。参加した子どもに、興味を持ったか、続けたいか等を聞き、次の施策に反映してほしい。教育現場では、入学してよかったか、授業の分かりやすさ等を細かく把握して改善につなげております。社会教育でも同様の視点が必要であると思います。

事務局 貴重な意見として、今後の制度設計と事業検討に反映する。

議長 今年度は、制度設計を丁寧に行う年度であることを確認しました。これまでの活発な取組も踏まえ、委員会として検討、応援していきたいと思っています。

報告（１） コミュニティ・スクールの進捗状況について

事務局 報告（１）について説明。

報告（２） （仮称）印西市生涯学習ビジョン策定基本方針について

事務局 報告（２）について説明。

報告（３） 社会教育関係団体の認定取消しについて

事務局 報告（３）について説明。

報告（４） 令和８年度印旛郡市社会教育振興大会について

事務局 報告（４）について説明。

報告（１）から（４）までにに関する意見及び質問は特になし。

７ その他

事務局 次回会議は、令和８年１１月１２日（木）を予定します。

時間等は決定次第、改めて連絡をいたします。

事務局 次に委員報酬につきましては、報酬額の７，５００円から源泉徴収額を差し引いた金額を８月中に振り込む予定であります。

８ 閉会

会議資料

【会議次第】 令和 8 年度第 1 回印西市社会教育委員会議 次第
議事

【資料 1】 令和 7 年度生涯学習関連事業の報告について

【資料 1 別紙 1】 多様な学習機会の提供 印西市民アカデミー

【資料 1 別紙 2】 家庭と地域の教育力向上と青少年の健全育成 家庭教育学級の開設

【資料 2】 令和 7 年度文化・芸術関連事業の報告について

【資料 2 別紙 1】 文化芸術活動の支援 市民文化祭

【資料 2 別紙 2】 文化芸術活動の支援 印西まちなか音楽祭

【資料 2 別紙 3】 文化芸術活動の支援 共催・後援

【資料 2 参考資料】 令和 7 年度印西市文化ホール自主事業一覧

【資料 3】 令和 8 年度印西市の教育施策

【資料 4】 令和 8 年度生涯学習関連事業の計画について

【資料 4 別紙 1】 令和 8 年度印西市民アカデミー講座予定表

【資料 5】 令和 8 年度文化・芸術関連事業の計画について

報告

【資料 6】 コミュニティ・スクールの進捗状況について

【資料 7】 （仮称）印西市生涯学習ビジョン策定基本方針

【資料 8】 社会教育関係団体の認定取消について

【資料 9】 令和 8 年度印旛郡市社会教育振興大会について

令和 8 年度 第 1 回 印西市社会教育委員会議の会議録は、事実と相違ないので、
これを承認する。

令和 8 年 9 月 1 日

署名委員

片 倉 恵美子

署名委員

山 本 信 秀